

四国手話 人情誌

増刊号（2025年11月20日）
発行：四国手話通訳問題研究会（四通研）

四国手話学習会「手話でGO！2025」開催

11月2日（日）、四国手話学習会「手話でGO！2025」が香川県高松市で開催されました。この学習会は、四国ろうあ連盟と四通研が合同で4県を持ち回りで開催しており、今年は115名の参加がありました。

この増刊号では、「手話でGO！2025」の様子を報告します。

【講演】「手話映画と訪問看護」 講師：聾宝手話映画 代表 谷 進一氏

手話映画「ヒゲの校長」の監督として知られている谷進一氏をお招きし、映画製作の裏話や本業である看護師の仕事の様子についてお話をいただきました。もともとは絵や漫画を描くことから始まり、演劇、映画へと変遷する中で、映画でろう学校の先生役を演じたのをきっかけに手話を覚えはじめ、「手話を残したい！」という思いが溢れだし、そこから手話映画の創作に取り組むようになったそうです。現在、週5日は本業の訪問看護の仕事をし、週末の2日間を映画作りに当てているということです。ヒゲの校長と新作の「沈黙の50年」以外にも、ショートムービーも含めると10以上の作品を制作していて、「令和の手話ができるまで（裏話）」「紡ぐ（盲ろう者の生活、触手話）」「ホームナース（訪問看護の様子がよく分かる）」の上映もありました。



「沈黙の50年」は旧優生保護法により不妊手術を強いられた人々の苦悩を描いた映画ですが、制作にあたり体験者にインタビューを試みたものの断られた件数も多く、唯一、兵庫県の小林さんが顔出しを了承してくれたことで映画が完成したとのことでした。小林さんは90歳を超えるご高齢になられていまですが、木工の仕事で知事賞を受賞し、知事から表彰を受ける時に「あなたたちに子供はいらないでしょ」と言われたことをはっきりと覚えていたそうです。諸般の事情でこのことは映画には反映できなかったということでした。谷氏は「映画を見る上で今まで我慢して封印していた思いが噴き出ることもある。私も話していいんだと思える。ぜひ観てほしい。」と紹介されました。



次々と映画製作に取り組んでおられる谷氏ですが、次回は「蛇の目寿司事件」をぜひ映像に残したいと思い、全日本ろう連にも伝えているとのことでした。

【第1分科会 「手話で話そう】

阿波、讃岐、伊予、土佐の人々が入り混じり、4つのグループができました。グー・チョキ・パー・立てた人差し指…グループにそれぞれの形が割り当てられ、その手の形を使った単語探しがスタート！ひとりではすぐに底をついてしまう単語も、みんなと一緒に連鎖反応のように次々と飛び出しました。続いて、自分達が出した単語を自由に組み合わせて文章作り。順調に進んだ後、「さあ、どう組み合わせよう



か？」と全員で残った単語とにらめっこ。タイムリミットが近づく中、笑いも交えながらみんなのユニークな発想で乗り切り、笑顔でグループ発表を終えました。

単語を確認し合ったり、地元の手話を教え合ったりと言葉を楽しく学んだのはいうまでもありません。一つひとつの力が集まると大きな力を發揮できることも学びました。言葉の大切さや仲間と協力する大切さを実感できた第1分科会でした。

担当：中町 純子、岩田 康恵（高知県）

【第2分科会 手話を創ろう～手話言語研究所標準手話研究部四国班～】



四国班は2012年に結成され、今年で13年になりました。班員も5名になり、四国四県にろう研究員が配置され、ZOOMでの班会ではありますが、それぞれの持ち味を発揮して、四国ならではの表現を工夫しています。

参加者は33名。新しい手話が確定されるまでの経緯と、その方法を説明した後、新しい手話をみんなで作りました。「見放される」の表現では「見放す」との違いを考えたり、若者言葉の「モヤる」「エモい」は、まずはその意味から話し合ったりと、今回も盛り上がった分科会でした。手話がどのようにつくられているのか、改めて意識することで、その魅力あることは手話を大切に育て、継承していくことを願っています。

担当：竹島春美（高知県）、近藤龍治（香川県）、前田真紀（高知県）
山本 勝（徳島県）、村木理恵（愛媛県）

【第3分科会 手話を学ぼう～デフリンピックを知ろう～】

21名の参加者とクイズ形式で進行していました。

例えば、参加国数は？（70～80カ国）、競技数は？（21競技）、メダルの隠し絵は？（折り鶴）など、初めて知る内容も多く、参加者は互いに顔を見合せながら興味深く取り組んでいました。

また、今回の分科会を通して、デフリンピックへの理解を深め、認知向上の必要性を改めて考える機会となりました。



<https://deaflympics2025-games.jp/main-info/medal/#gsc.tab=0>
担当：横井加奈子・青野陽子（愛媛県）

【第4分科会 手話を学ぼう

～国際手話を覚えて、デフリンピックを盛り上げよう～】

第4分科会「手話を学ぼう」は、徳島が担当。「国際手話をおぼえて、デフリンピックを盛り上げよう」をテーマに学習をしました。世界ろう者会議やデフリンピックなどで国際手話を見る機会が増えてきていることを紹介し、五輪とデフリンピックのマークの意味や色のサインを学びました。また、国際手話は言語ではなく1つのコミュニケーション手段であり、口形を使わず、表情や体の動きで表すことの重要性を説明。自己紹介のためにアルファベットや数字、基本の挨拶や疑問詞を学び、会話の練習をしました。日本手話との違いに戸惑いながらも楽しく学ぶことができました。今後も関心をもって学び続けてほしいと思います。ろう講師も実際に国際会議への参加を経験していましたが、参加された皆さんの期待に応えた学習になったかどうかわかりませんが、しっかりと向き合って、一緒に学んでいただけたことに感謝します。ありがとうございました。

担当：山本勝、川真田光子（徳島県）

来年度の「手話をGO！2026」は、2026年11月15日（日）に愛媛県で開催予定です。次回も、多くの皆様とともに学び合うことができるのを楽しみにしております。

【2025年度 第15回四国手話講師研修会のお知らせ】

- ・日時 2026年3月8日（日）
- ・場所 愛媛県視聴覚福祉センター（愛媛県松山市）
- ・内容 講演及び分科会（予定）

申込方法等詳細は、四通研各支部へお問い合わせください。